

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3936号 2017.10.4 発行

### 場面緘黙症 普通に話したいのに 特定場面で会話困難 経験者発信「支援を」

毎日新聞 2017年10月4日



体験を語る大橋さん=札幌市で

#### ◆「場面緘黙症（ばめんかんもくしょう）」

家では普通に話せるのに、学校に行く和别人のように話せなくなる。そんな「場面緘黙（ばめんかんもく）症」と呼ばれる病気の経験者が、悩んでいる子どもを励まし、社会に理解を広げようと、声を上げている。国内の発症者は200人に1人程度。いまだ認知度が低く、大人になってから病気と知らされるケースも多いため、早期の診療や周囲の適切な支援の必要性を訴えている。

#### 【日下部元美】

「皆にとって、私は『空気』でしかありませんでした」。福島県のハンドルネーム「すず」さん（34）は、2015年3月から、ブログやツイッターで自分の体験を漫画にして発信している。

場面緘黙症は、話す能力はあるのに、ある特定の場面では会話ができなくなる。すずさんは幼稚園から中学3年まで症状が続き、いじめにも遭った。高校に入り、環境が変わって徐々に改善したが、思い通りの会話はできなかったという。

病気を自覚できたのは大学生になってから。インターネットで「学校 しゃべれない」と検索すると理由が分かり「私だけが変じゃなかったんだ」と納得した。「できるなら、誰かに早く手を差し伸べてほしかった」との思いも募った。

「元かんもくのせいで失恋」「気まずい家庭訪問」。漫画はこんなタイトルで、小さいころのエピソードや、治った後も周囲とのコミュニケーションに苦労した経験などを明るいつまみで描く。ブログには「希望もてる言葉ありがとう」「可愛くて分かりやすいので緘黙の息子にも見せています」といったコメントが相次いだ。

今は結婚し、1児の母。すずさんは『なぜしゃべれないの?』と責められる人が少しでも減るといい。つらいことはあっても、幸せになれると伝えていきたい」と話す。

#### 場面緘黙の発症イメージ



※はやしみこ著「どうして声が出ないの？」  
(学苑社)を参考に作成

すずさんがブログに掲載した漫画「I'm 空気」 / すずさんがブログに掲載した漫画「勝手に決めるな！」

私は学校でしゃべれなかった  
ので...



クラスメイトの「ヒミツ」を聞いて  
しまうことが多かった



いじめの現場を目撃すること  
も...

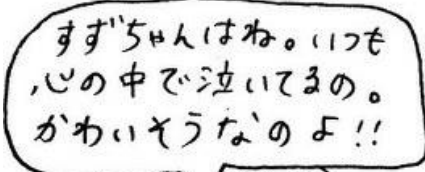


皆にとって、私は「空気」でしか  
ありませんでした...



札幌市  
の大橋伸  
和（のぶ  
かず）さ  
ん（33）  
は5年前  
から、市  
民向けの  
講演会な  
どで孤独  
だった苦  
しみやそ  
れを克服  
した体験  
を語って  
いる。

小学校  
入学前か  
ら人と関  
わるのが  
苦手で、  
騒がしい  
音に過敏  
に反応す  
るなどの  
傾向があ  
った。小  
学3年ご  
ろから学  
校で話せ  
る量が減  
り、4年  
になると、  
完全にし  
ゃべれな  
くなった。



体が緊張で固まり、人前で「はい」「いいえ」とさえ口に出せなかったという。

中学はほとんど不登校で、児童相談所に通った。通信制の高校を卒業後、児童精神科の病院に併設されていた福祉作業所の喫茶店に通い始め、信頼できる支援員や同じ境遇の仲間にも出会えたことが転機となった。例えばコーヒーを上手にいれられた時など、ささいなことでも周りが褒めてくれた。「自分のいいところに気づかせてもらった」

25歳で札幌学院大学に進学し、発達障害などの当事者らと交流する中で人前で経験も話せるようになったが、卒業後に就職したNPO法人はうつ症状などでやめざるを得なかった。「長年蓄積された自己否定感や不安感は、簡単にはなくなる」というのが率直な思いだ。それでも「周囲の適切な関わりがあれば、苦しみは軽減される」と訴え、支援者が一人でも増えてくれることを願っている。◇「育て方のせい」は誤解 脳の過剰反応、早期治療が肝心

場面緘黙症は「不安障害」に分類される疾患で、慣れないことに不安を感じて回避してしまう先天的な性質（行動抑制的気質）に起因する。1990年代以降に欧米で研究が進み、恐怖心と関係が深い脳内の「へんとう体と呼ばれる部位の過剰反応と考えられている。親の過保護やしつけなど「育て方のせい」とみるのは誤解だ。

行動抑制的な気質の子が、運動や言葉の問題などで不安を抱えていたり、幼稚園の入園など環境変化による負荷がかかると発症する。動くこともできないケース、音読など決まった文言なら話せるケースなど症状は多様で、幼児段階では「人見知り」として見過ごされやすい。

この病気に詳しい「かねはら小児科」（山口県下関市）の金原洋治医師によると、長期化すると症状が固定化し、うつなどにつながるリスクが高まる。早期の治療が肝心で、幼稚園から小学校低学年までに治療すれば数年で治るケースもあるという。

医師の助言に従って家庭や学校で体験を重ねる「行動療法」と薬物療法の併用が欧米では主流だが、日本では小児への投薬は一般的ではない。国内に専門の医療機関が少ないことも課題だ。

家族や教員ら、周囲の大人はどう接したらいいのだろう。経験者や医師らで作る支援団体「かんもくネット」は、家庭と学校が協力して、子どもが安心して話せる状況から少しずつ話せる場所や人を増やし、学校の教室へと広げるといった支援イメージを示す。発達障害などを抱える子もいるため、教育、福祉、医療など各機関の連携も必要という。

啓発団体「北海道かんもくセミナー」の事務局を務める札幌市の幼児教育支援員、柏木順さん（52）は、子どもに（1）安心感を与える（2）自信を持たせる（3）社会的交流の楽しさを教える—ことを挙げる。『しゃべらせる』のではなく、長期的視野で生活自体を楽しく送ることを基本にしてほしい。親と学校や幼稚園が、子どもが嫌だったこと、うれしかったことなどの情報を共有することも大切」とアドバイスする。

#### 障害児の支援体制整備 福祉計画を拡充 県推進協佐 賀新聞 2017年10月4日



各委員たちが、障害児支援体制の構築などを新たに加えた第5期県障害福祉計画などについて意見を交換した＝佐賀県庁

佐賀県障害者施策推進協議会（会長・浅見豊子佐賀大医学部教授、15人）が2日、県庁であり、障害者施策の実施計画となる「第5期県障害福祉計画」（2018～20年度）の成果目標を承認した。年度内に計画をまとめる。

計画は、施設入所者の地域生活への移行など5項目の目標値を定める。国の基本方針見直しを踏まえ、障害児支援体制の整備を新たに加えた。現状では、児童発達支援センターや重度心身障害児を支援する施設が伊万里地域にはなく、少なくとも1カ所以上設置、確保する。

第4期計画（15～17年度）の実績と中間評価も報告された。13年度末時点の施設入所者数（1429人）のうち、地域生活へ移行した人数は、目標値12・5%（179人）に対し、17年度末の見込みは6・2%（89人）と半分程度にとどまっている。

委員からは「第4期では実績が国の平均は超えていても、目標値を超えていない。設定の仕方や計画の進め方にも課題があるのでは」という指摘があった。

#### 「ヘルプマーク」活用を 広島県が無償配布開始 産経新聞 2017年10月4日

県は、配慮や援助の必要を外見で分からない人が、身につけることで必要な手助けを求めることができる「ヘルプマーク」の無償配布を始めた。

ヘルプマークは、義足や人工関節の使用、内部障害や難病などの人を対象に、平成24



年に東京都が作成。全国で導入する自治体が相次いでいる。

マークを見せて配慮を求めれば、援助が得られやすくなるとしている。

赤色の背景に白色のハートなどをデザインした。名前や必要な支援内容を記載するシールを貼ることができる。ストラップになっていて、かばんなどにも装着できる。

災害時などに、連絡先や支援内容を記載する「ヘルプカード」も付いている。

県障害者支援課で配布。障害者手帳や身分証の提示が必要。家族や代理人の受け取りもできる。

問い合わせは同課（電）082・513・3157。

## 障害者暴行事件 県警OBの職員らを証拠隠滅容疑で逮捕へ

NHK ニュース 2017年10月4日

宇都宮市の障害者支援施設で、知的障害のある入所者に暴行したとして職員ら2人が逮捕された事件で、施設を運営する社会福祉法人の職員で栃木県警のOBら3人が、事件後に行われた内部調査の文書を処分した疑いがあることが捜査関係者への取材でわかりました。警察は、証拠隠滅の疑いで3人の逮捕状を取り、4日にも逮捕する方針です。

ことし4月、宇都宮市の障害者支援施設「ピ・ブライト」で、知的障害のある28歳の入所者の男性に暴行を加え、腰の骨を折るなど全治およそ6か月の大けがをさせたとして、職員として勤務していた松本亜希子被告（25）ら2人が傷害の罪で起訴されました。

その後の調べで、いずれも施設を運営する社会福祉法人「瑞宝会」の職員で、栃木県警のOB2人と、当時の施設長の合わせて3人が、事件後に行われた内部調査の文書を処分した疑いがあることが捜査関係者への取材でわかりました。

文書には、入所者の男性が暴行を受けた際の見証証言が記載されていたと見られています。警察は、証拠隠滅の疑いで3人の逮捕状を取り、4日にも逮捕する方針です。

## 介助犬のこと教えて 金沢の児童 自由研究に

中日新聞 2017年10月4日

介助犬のことを知りたい。金沢市緑小学校六年の青木彩葉さんがこの夏休みの自由研究で、同市の介助犬利用者平野友明さん（49）と介助犬タフィー（ラブラドルレトリバーの雌、八歳）を訪ね、生活の様子などを質問した。研究を通じ、周りの人にも介助犬のことを知ってもらいたいとの思いを持った。（山内晴信）



### 質問50件、理解浸透願う

介助犬の自由研究をした青木彩葉さん（右）と母千晴さん＝石川県野々市市で

「介助犬はどんな事をしてくれますか？」

「タフィーちゃんのトイレは、どうしてますか？」

A4判六十ページにまとめた冊子には、平野さんに尋ねた五十の質問とその回答を載せた。一ページにつき一問一答。「とにかく聞きたいことを書き出して準備した」と青木さん。質問は三時間にも及んだ。

タフィーのおかげで平野さんがゆっくり入浴できるようになったことや、外出の準備時間が大幅に短くなったことなどが分かり、まとめた。写真や新聞記事のコピーを貼り、大事だと思う部分にはオレンジや赤、水色の線を引いた。

平野さんは二〇〇九年に仕事上の事故で手足が不自由になり、電動車いすでの生活を送る。一二年からは石川県内唯一の介助犬タフィーと生活する。研究には、青木さんの質問に「自由研究でとりあげてくれる小学生がいますように」と願い「たっせいできると思っ

てうれしかった」と回答したことも記してある。

幼いころから犬が大好きだったという青木さん。母の千晴さん（42）と平野さんが知り合いだったことから今回の研究をした。

その結果、介助犬を持つことで障害者やその家族が明るく、前向きに過ごせるようになると考えるようになった。「介助犬のことをもっといろんな人に知ってもらい理解してもらうことで介助犬とともに生活しやすい世の中になってもらいたいと思いました」と研究を締めくくった。

内容を発表すると同級生からは「すごいね」と褒められた。学校に冊子を見に来た平野さんは涙を流して喜んでくれた。

研究をきっかけに新たな交流も始まっている。平野さんが配る補助犬紹介のリーフレットを千晴さんが営む障害者の就労支援施設で折るようになった。利用者が介助犬を知ることにつながる。「娘の研究を通じて自分も良い経験ができた」。千晴さんはそう話し、誇らしげに長女を見つめた。

**介助犬** 身体障害者補助犬法で盲導犬や聴導犬とともに「補助犬」とされる。訓練事業者によるトレーニングを受けて国が指定する法人が認定する。物を拾って渡したり、扉を開けたりと障害者の身の回りの世話をする。

## 目が見えず、耳が聞こえない…手話の手に触れ会話の日常

聞き手・十河朋子

朝日新聞 2017年10月3日



指点字によるコミュニケーション。点字タイプライターの見立てて指をたたく（C）  
2 0 1 7  
S i g l o

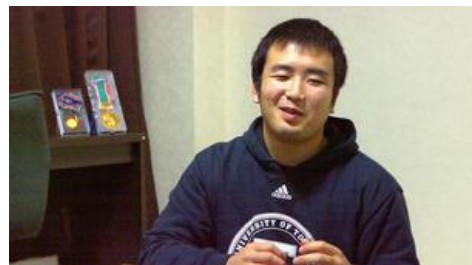


目が見えず、耳が聞こえない。そんな盲ろう者たちの生活や思い



を伝えるドキュメンタリー映画「もうろうをいきる」が、14日から大阪市内で公開される。監督の西原孝至（たかし）さん（34）に、どんな思いで撮影に臨んだのかを聞いた。

〈映画の概要〉 全国に約1万4千人いるという盲ろう者が、家族や支援者とともに地域で暮らす日々を、丁寧にすくいとった映画。地震と津波で家を失った宮城県の男性、家事をこなし買い物にも行く宮崎県の女性など。東大教授の福島智さんもいる。悩みや葛藤はある。だがむしろカメラは、身近な人たち





とコミュニケーションをとるときの笑顔に光を当てる。

■監督「たくましさ伝えたい」

——撮影のきっかけは

盲ろうの方に初めて会ったのは去年の春。映画のバリアフリー上映会でした。触（しょく）手話（手話の形を手で触って読み取る）や、指点字（指をたたいて言葉を伝える）で映画を鑑賞する姿を見て、自分の知らないコミュニケーションに驚きました。



撮影に入る直前に、（障害者施設で19人が殺害された）相模原事件が起きました。容疑者の男性は「障害者は生きていても仕方がない」と語ったといいます。事件に対し、何か反対のメッセージを打ち出せないかという思いで臨みました。

——登場する人たちの障害の程度は様々です

全く耳が聞こえず目も見えない「全盲ろう」の方もいれば、少し聞こえる、少し見える人もいます。障害の重さも、いつから見えなくなったかといった歴史も様々です。障害の幅広さを知ってもらいたかった。そのグラデーションを描こうと思いました。

だんじりの街にオレンジの輪 「認知症支えて」医師発案 十河朋子

朝日新聞 2017年10月3日

オレンジリングをつけ、大修理されただんじりのお披露目に臨んだ上市（かみいち）青年団のメンバーら。団長の松尾寛史さん（28）は「祭りも認知症サポートも地域のため」＝1日、大阪府泉大津市



試験曳（び）きの日、参加者はオレンジリングをつけた＝大阪府泉大津市

だんじりが盛んな大阪府泉大津市で、参加者が「認知症サポーター」になる動きが広がっている。祭りで培われた地域のつながりを、認知症の人の支援にいかす取り組みだ。7、8日の本祭りには、サポーターの証しであるオレンジ色の腕輪をつけ、意気込みをアピールする。

きっかけは、市内で内科・神経内科医院を営む医師の川端徹さん（54）の発案だった。地元出身で、大学進学などで泉大津を離れた時期も、だんじりの時は帰省して参加してきた。



2014年夏、医療や介護関係者らの集まりで、どうすれば認知症サポーターが増えるかが話題になった。「だんじり関係者にやってもらえば一気に広がるのでは」。川端さんは

かねての思いを語った。

地元の上之町で呼びかけたところ、14年は約200人がサポーターになり、他の町へも広がった。先月中旬にあったサポーターの養成講座でも、新しく地元の青年団に入る高校生たちが参加。今年で約1400人にまで増えた。

### 精神疾患と向き合う 配偶者ら支える会発足 函館 悩み共に考える場に 28日に最初の「つどい」



北海道新聞 2017年10月3日  
打ち合わせを進める吉荒さん、丸山さん、斎藤さん(右から)

「精神に障がいがあるひとの配偶者・パートナーの支援を考える会@はこだて」が発足した。初回のつどいを28日午後2時から、市内湯川町3の介護老人保健施設「ケンゆのかわ」で開く。精神疾患の当事者を支える配偶者やパートナーに絞った支援会は道内初で、吉荒龍哉代表(41)＝ケンゆのかわ主任理学療法士＝は「配偶者やパートナーならではの特別な悩みや困り事を一緒に考える場に」と話している。

ている。

吉荒代表は精神疾患にまつわる言動や行動など生活課題の悩みに接する機会があり、3月に東京で開かれた「第7回精神に障害がある人の配偶者・パートナーの集い」に参加。函館にも悩みを持っている人がいるはずと、同級生で社会福祉学が専門の道教大函館校准教授の斎藤征人さんに相談し、会を立ち上げた。

斎藤さんは、自身の経験から同じ課題を抱える人同士が集まって意見を交換し、互いに支え合う「自助グループ」の力の大きさに以前から注目しており、「(配偶者・パートナーは)悩みや困り事などで力を失ってしまっていたり、混乱したり、本来の力を出せないでいることがいっぱいあるが、理解者がいることで苦しみを語り、分かち合い、本来持っている知恵や力を取り戻せると思う。より近い悩みであった方が得られるものも大きい」と話す。

### 「和食」食べやすく介助 掛川で実証研究

中日新聞 2017年10月4日

#### ◆東工大などのロボ開発

虚弱な高齢者の自立的な生活を促す国際共同研究プログラムの実証研究が、掛川市の福祉施設などで始まった。日本食に合った食事介助ロボットを開発し、食事の量や栄養の偏りなどが確認できる遠隔操作システムを構築する。東京工業大とスウェーデンの福祉機器メーカー「カマニオ」などが三日、市役所で会見した。

科学技術振興機構(埼玉県川口市)とスウェーデンのイノベーションシステム庁の二〇一六年度共同研究で採択されたプログラム「活力ある人生のための食事プロジェクト」。

カマニオ社の食事介助ロボットを母体に一九年度末までに、腕状のアームの先端に取り付けて食べ物を口に運ぶグリッパーや、食事内容を把握できるカメラ付きのシステムなどを開発する。

日本側チーム代表の西條美紀・東京工業大教授は、掛川市の福祉施策に協力した経緯がある。すでに高齢者施設で食事の実態調査を始めており、今後は既製品を改良しながら使い勝手や形状、食事の量が把握できる調査・研究を進める。

また、虚弱体質になりがちな高齢者が十分なタンパク質を摂取できる食品の開発に取り組んでいる藤田保健衛生大(愛知県豊明市)とも協力し合う。西條教授は「日本食に合うグリッパーや食事の開発につなげたい」と話した。(赤野嘉春)

## 大阪府、スタートアップ支援拡充 IT・IoT部門新設

日本経済新聞 2017年10月4日

大阪府はスタートアップ企業などを対象にしたビジネスプランコンテストを拡充する。従来の地域需要創出、グローバル成長の2部門にIT・IoTビジネス部門を加え、募集を始めた。2018年1月の審査で、創業5年以内の企業や起業予定者など5者を選ぶ。3年で最大300万円の補助金や、起業経験者らによる1対1の助言を受けられるようにする。

新部門ではインバウンド（訪日外国人）と福祉を中心にIT（情報技術）、すべてのモノがネットにつながるIoTを生かしたビジネスプランを募る。関連する府の部局や事業者でチームを組んで支援する。応募には金融機関や商工会議所など81団体の推薦が必要。11月21日に締め切る。

大阪府は13年度からコンテストを8回実施し、33者を選定している。

## マイナンバーカードの本格運用、また延期

朝日新聞 2017年10月4日

野田聖子総務相は3日、マイナンバーカードを使って役所での手続きを簡素化できる制度の開始を、11月に延期すると発表した。10月の予定だったが、一部の健康保険組合で組合員からのマイナンバー聞き取りが遅れ、自治体とデータをやりとりできない例が多いことなどが理由という。

当初は7月に始める予定だったが、カード発行で多数のシステムトラブルが起きた反省から、高市早苗前総務相が「自治体などがシステムに習熟する期間を置く」として10月に延期していた。一方、パソコンやスマートフォンで保育所の申し込みなどができる「マイナポータル」という機能は10月中に始める。

## 米ヤフー、30億件情報流出 全利用者が被害、13年に 共同通信 2017年10月4日

ヤフー本社にある同社のロゴ=3日、カリフォルニア州サニーベール（AP=共同）



【ニューヨーク共同】米検索大手ヤフーの全利用者が作成した約30億件のアカウントに関連する個人情報が出回っていたことが3日、分かった。米メディアによると、個人情報流出では過去最大規模となる。ヤフーの中核事業を6月に買収した米通信大手ベライゾン・コミュニケーションズが発表した。2013年8月にヤフーのネットワークに不正侵入した第三者によって盗まれたとみている。

米メディアによると、流出した情報には利用者の氏名や電話番号、生年月日などが含まれているといい、利用者にはパスワードの変更などを呼び掛けている。クレジットカードや銀行口座の情報は含まれないという。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行